

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2023年 第32週（8月7日～8月13日）

今週のコメント

～咽頭結膜熱～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「咽頭結膜熱 減少」

第32週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,330例であり、前週比39.7%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナの順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.90、1.59、1.33、0.72、0.64である。

感染性胃腸炎は前週比36%減の373例で、南河内3.31、中河内3.21、三島2.88、泉州2.24、豊能2.04であった。

咽頭結膜熱は33%減の311例で、大阪市西部2.70、泉州2.57、南河内2.13である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は36%減の260例で、北河内2.28、堺市2.11、南河内1.81であった。

RSウイルス感染症は38%減の142例で、南河内1.69、北河内1.16、泉州・大阪市北部1.00である。

ヘルパンギーナは60%減の126例で、大阪市北部1.43、大阪市西部1.10、中河内0.89であった。

新型コロナウイルス感染症は25%減の3,078例で定点あたり報告数は10.23である。堺市15.93、南河内13.25、北河内11.85、泉州11.53、大阪市北部10.85であった。第31週より2週連続で減少した。年齢別では、第1位は50-59歳で13%を占めている。60歳以上の割合は27%である。

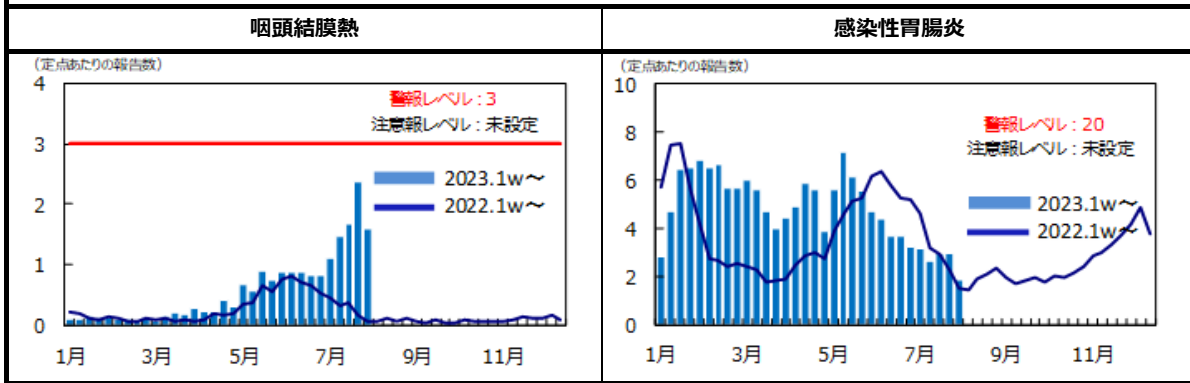


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第32週8月7日～8月13日）

第32週の順位	第31週の順位	感染症	2023年 第32週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2022年 第32週の 定点あたり 報告数	2023年第32週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	1.90	36%減	1.38	1歳_18%
2	2	咽頭結膜熱	1.59	33%減	0.07	3歳_19%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.33	36%減	0.20	5歳_17%
4	5	RSウイルス感染症	0.72	38%減	3.51	1歳未満_37%
5	4	ヘルパンギーナ	0.64	60%減	0.22	1歳_23%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	10.23	25%減	-	50-59歳_13%

新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降\(大阪府\)』の情報をご覧ください。](#)

[詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症\(大阪府感染症情報センター\)』の情報をご覧ください。](#)

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

第32週のコメント

～梅毒～ 大阪府の梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2021年7,873例、2022年13,226例と増加している

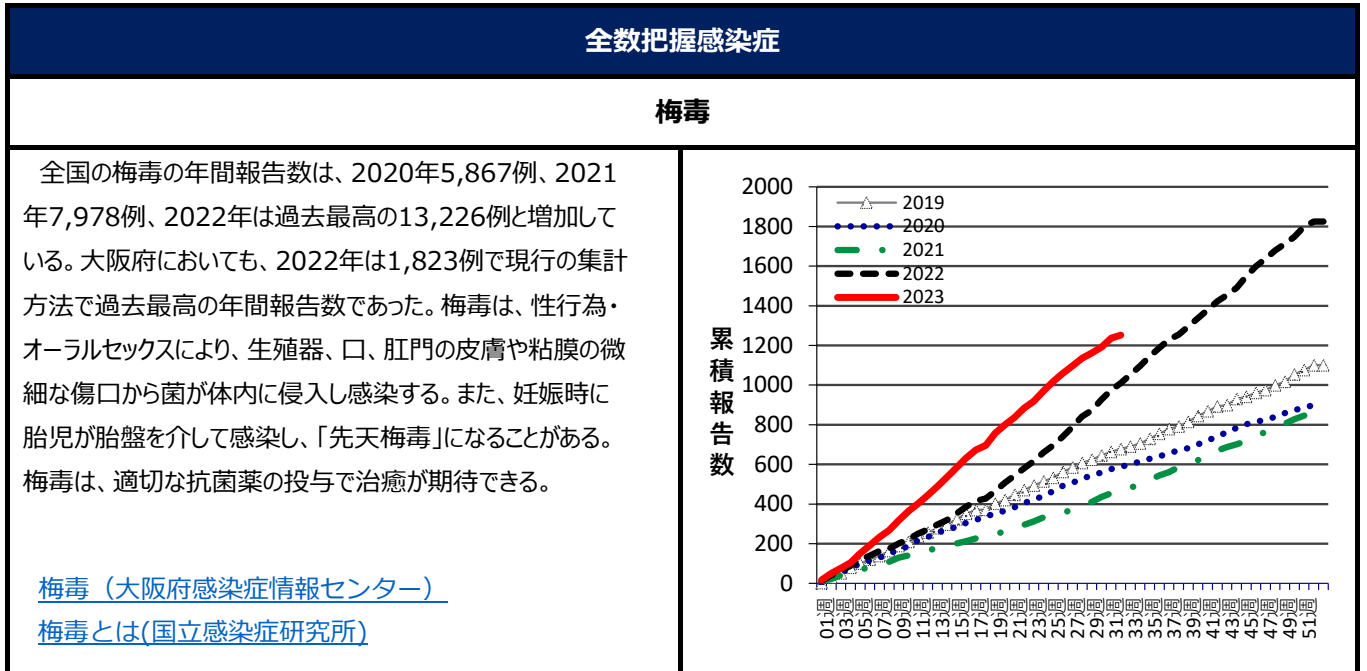


表 2. 大阪府全数報告数（2023年 第32週8月7日～8月13日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村別										府内累積報告数
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6	2						1		3	105	
4類感染症	E型肝炎	2									2	8	
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2		1	1							85	
	後天性免疫不全症候群	1									1	48	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	1									85	
	水痘（入院例）	1						1				17	
	梅毒	16			2	1					13	1,252	
結核 (2023年6月分)	結核 新登録患者数：67名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 26名) (府内累積報告数 539名、内 肺・喀痰塗抹陽性 193名)												

(2023年8月15日 集計分)